

「道行竈の日本酒造り」の安定的な経営と
日本酒造りを契機とした
限界集落における地域（農業）の再生

 南伊勢町道行竈区

地域の概要

【南伊勢町】

平成17年に南勢町と南島町が合併

人口・・・ **10,857人**

高齢化率・・・ **53%**

主な産業・・・水産業（漁獲量は三重県**No.1**）
農林業（**温州みかん**、柑橘類等）



伊勢志摩国立公園内の鶴倉園地

【道行竈（みちゆくがま）区】

人口・・・ **34人** (24世帯)

高齢化率・・・ **73.5%**

主な産業・・・ **水稲を中心**とした農業集落

源平合戦のころ、平家の落人が入植したものの、先住者によって既に漁業権が握られていたため、塩竈を造り塩を焼き、わずかな耕地を開いて自活したという「平家落人伝説」が伝わる「南島八力竈」（なんとうはっかかま）の一つ



道行竈の田んぼ



道行竈の入り江

地域の現状と課題

- 人口減少、高齢化に伴い米作りを担う人材が減少し
耕作放棄地が増加
- さまざまな観点から地域農業の再生について考え、地域の土地利用、竈方文化、農村景観の活用など
一体的なシステムのモデルを構築したい



- 南伊勢町と皇學館大学が締結した包括連携協定の一環として、**日本酒プロジェクト**が始動。地域住民を中心とした有志により「**チーム道行竈**」が結成され、道行竈の酒造りが始まった。



- 安定的な経営に向けて**経営改善**や**販路拡大**に向けた取組みが必要

これまでの活動

2018年 日本酒プロジェクト始動



2019年 純米大吟醸「道行竈」完成



2020年 チーム道行竈を法人化



2021年～ 販路の拡大



東大FSの提案から
始めました

- ・伊勢市「だいどこ市」
(月1回)での販売
- ・オンライン販売

2024年 農業ボランティアの受入れ



具体的なプログラム

【東大生に期待したいこと】

- 日本酒の**販路拡大**や**経営改善**のためのアイデアの検討と実行
- 現地活動に加え、**首都圏や東大をフィールド**にした道行竈の取組みの**情報発信**
- 歴史・文化・自然などの**地域資源を活かしたプロモーション**の提案
- 人手不足を魅力に変える**「田作り・草刈り」**で人を呼ぶ仕組みの提案
- **竈方集落の歴史**を次世代へ繋ぐ先進的なアプローチの提案
- 道行竈の活性化を目指し、次の10年に向けた**アクションプラン**の作成

さらに・・・

- 道行竈の取組や、それを含めた**「地域システム」**が持続可能な形で継続できる**ようなアイデア**の検討と着手

具体的なプログラム

活動月	活動内容
6月～8月	草刈り、地域住民との交流（現地活動 候補①）
8月～9月	稲刈り、草刈り等の農作業（現地活動 候補②）
12月上旬～中旬	新酒の販売準備（現地活動 候補③）
2月上旬～中旬	田んぼの石拾い、現地報告会

※現地活動日：①～③のうち、いずれか2つを学生の皆さんと打ち合わせで決定

地道な農作業も含めて体験していただき、道行竈の持続可能な仕組みをご提案いただければと思います。